

## はじめに

**大切なことは、医療者と患者さんが理解・納得し合って治療を進めることです。**

皆さんは「インフォームド・コンセント」という言葉をご存知でしょうか。日本語では、「説明と同意」あるいは「説明・納得・同意」などと訳されていますが、医療者が一方的に治療法を決めるのではなく、医療者と患者さん、ご家族が共に病気について理解・納得し合い、一人一人の患者さんにとって最善の治療を行うことを意味しています。

昔は、がんの治療法が少なく、治療効果にも限界があったことから、なるべくがんという病名を伝えないようにしたり、病名を告げぬまま、医療者が一方的に治療法を決めてしまうことが少なくありませんでした。しかし、現在は、がんの治療法が進歩して多くの患者さんががんを克服して社会生活に戻ることができるようになりました。また、治療の選択肢も広がり、患者さん自身に病気と治療法について十分理解して頂き、患者さんの意志を尊重した最善の治療を行うことが何よりも大切になります。

乳がんの治療では、女性にとってかけがえのない乳房を取り除く乳房切除術(全摘術)が適しているのか、乳房を残す乳房温存手術でも大丈夫なのか、重要な決断を迫られることも少なくありません。また、大きながんであるにもかかわらず、どうしても乳房を取るのがいやだからと、乳房内再発(→参照)の危険性を無視して乳房温存手術を選択し、場合によっては命を縮めることになるのは、とても残念なことです。あなたの病気を治す手術や治療にはどのような方法があるのか、その方法の良い点と悪い点は何なのか、適切な治療を受けなかった場合にどうなるのか、お互いによく話し合いながら、最善の治療法を決めなければなりません。

患者さんの中には、がんということを告げて欲しくないと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちがあえてがんということを告げるのは、それが最善の治療の根底であり、乳がんは治る見込みの高い病気で共に闘って行ける有効な治療手段が幾つもあるからです。

これから乳がんを克服するためには、多くのハードルを超えなければなりません。たとえ手術でほぼ完全にがんを取り切れたと判断された場合でも、完全に克服できたと確認されるまで、幾つかの治療を加えなければならないことがあります。定期的な検査も必要です。

初めてのことで分からないこと、不安なことがたくさんあると思います。これからの長い道のりを共に歩むために、あなたが今お感じになっている不安感や疑問点、生活のこと、どん

な些細なことでも遠慮なく、医療者にご相談ください。また、病気を克服するために、ご家族や友人とよく相談し、あなたの病気や気持ちを理解してもらうことがとても大切です。

## 乳がんについて

「どうして私が・・・」、これはがんと診断された患者さんが誰しも最初に思う、いつわらざる気持ちです。これまでの平穏な生活を中断される不安と怒り、そしてどうしたらいいのか分からない絶望感……。しかし、このような気持ちから立ち直り、がんと闘い、がんを克服された患者さんはたくさんいらっしゃいます。

中でも、乳がんは比較的性質の良いがんの一つであり、優れた検査法や有効な治療手段が多いことから、早期に発見して適切な治療を受ければ、ほぼ完全に治すことができます。また、たとえ進行していても、患者さんの病状に応じた有効な治療手段がありますから、けっしてくじけることなく治療を続けてください。

わが国で乳がんと診断される女性は、1年間に4万人にのぼっています。そして、その多くの方が不安やつらい治療を乗り越え、立派に社会生活にもどっています。

このサイトでは、乳がんの治療法についての理解を深めて頂くために、医療者とのコミュニケーションの重要性と、乳がんの最も基本的かつ確実な治療法である「外科的手術」を中心に解説しています。

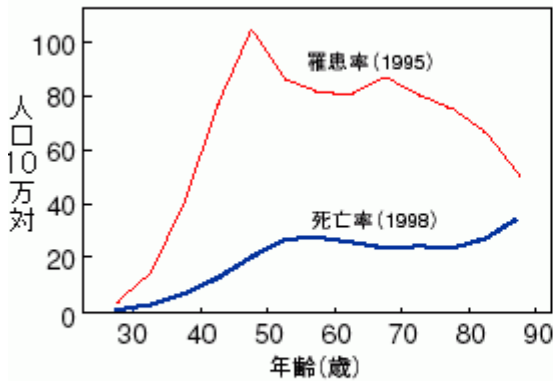
乳がんの治療法はどんどん進歩し、治療に対する考え方がずいぶん変わってきています。また、治療法は患者さんのしこりの大きさや病勢の程度によって大きく異なります(治療を受ける病院によっても多少異なることがあります)。間違った情報を鵜呑みにするのではなく、医師や看護師の説明をよく聞き、よく話し合い、患者さん自身が十分納得した上で、治療を受けることが大切です。

どのような手術法を選んだら良いのか、手術前や手術後の治療はどうするのか、医療者との十分なコミュニケーションをはかるために、このサイトの内容を参考にして頂ければ幸いです。

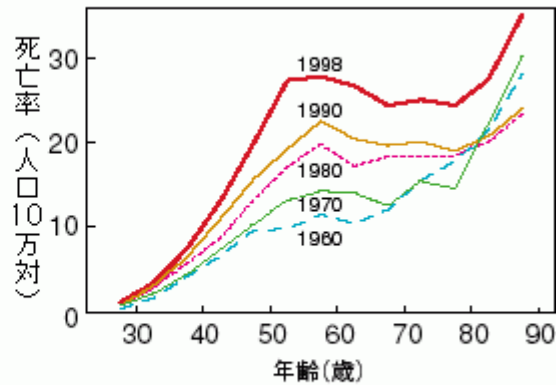
# 乳がんの現状と将来予測

## 乳がんの年齢別罹患率・死亡率

日本の乳がん(女性)の年齢階級別罹患率(1995年)<sup>1)</sup>と死亡率(1998年)<sup>2)</sup>



日本の乳がんの年次別年齢階級別死亡率<sup>2),3)</sup>

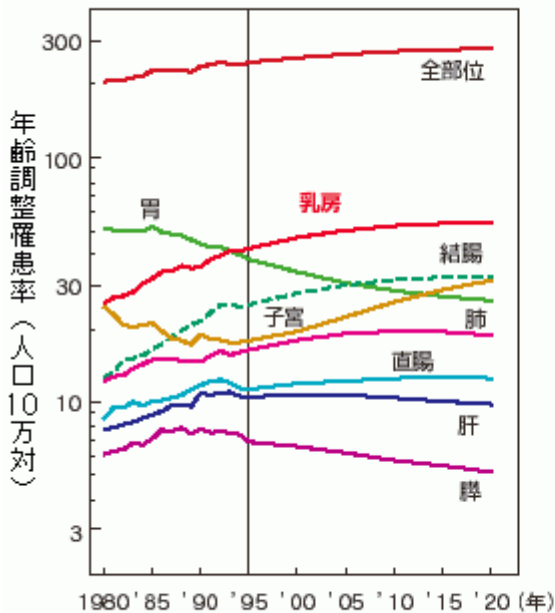


黒石哲生:癌の臨床,46(5),423,2000より

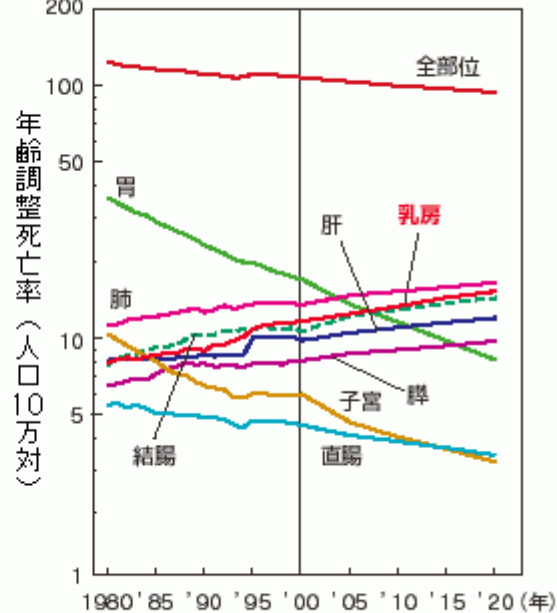
- 1)厚生省がん研究助成金「地域がん登録」研究班(主任研究者:大島明)報告書,1999より
- 2)厚生省統計情報部編:「人口動態統計,1950-1998」(厚生省統計協会)より
- 3)富永祐民ほか編「がん・統計白書—罹患/死亡/予後—1999」(篠原出版),1999より

## 乳がんの罹患率・死亡率の将来予測

女性の罹患率



女性の死亡率

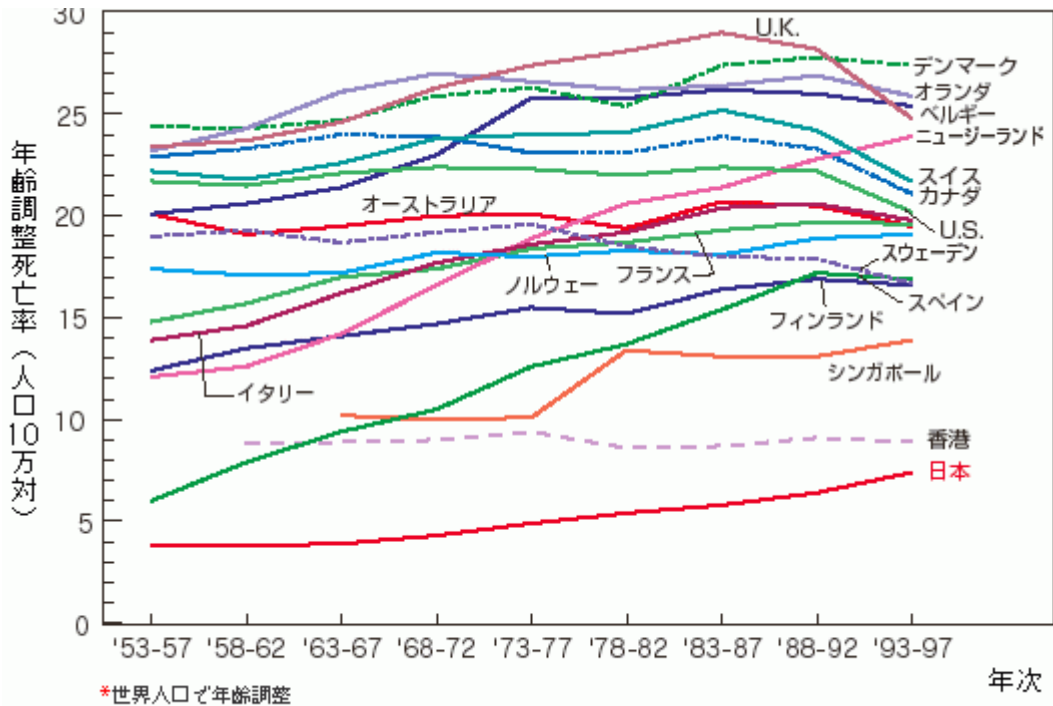


罹患率:標準人口は世界人口

死亡率:標準人口は1985年の日本のモデル人口

大島明ほか編「がん・統計白書—罹患/死亡/予後—2004」(篠原出版新社),2004より

## 主要国の乳がんの年齢調整死亡率の動向



大島明ほか編「がん統計白書—罹患/死亡/予後—2004」(福原出版社, 2004)より

## 乳房のしくみとがんの発生

乳房は、出産時に乳汁を分泌する大切な役割をもつ皮膚の付随器官です。その中には「乳腺」と呼ばれる腺組織と脂肪組織、血管、神経などが存在しています。

乳腺組織は、15~20の「腺葉」に分かれ、さらに各腺葉は多数の「小葉」に枝分かれしています。小葉は乳汁を分泌する小さな「腺房」が集まってできています。各腺葉からは乳管が1本ずつ出ている、小葉や腺房と連絡し合いながら、最終的に主乳管となって乳頭(乳首)に達します。

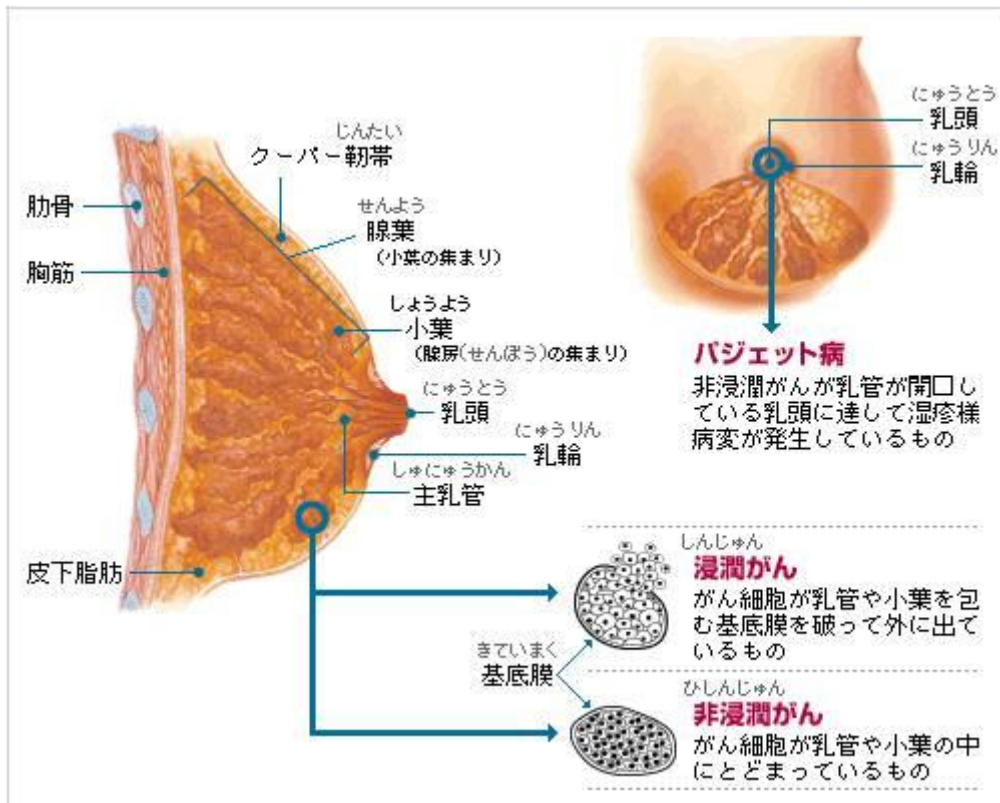
## 乳がんは乳房の中にある乳腺にできるがん

乳がんはこの乳腺を構成している乳管や小葉の内腔(内がわ)を裡打ちしている上皮細胞から発生します。がん細胞が乳管や小葉の中にとどまっているものを「非浸潤がん」あるいは「乳管内がん」、乳管や小葉を包む基底膜を破って外に出ているものを「浸潤がん」といい、この他、非浸潤がんが乳管が開いている乳頭に達して濕疹様病変が発生する「パジェット病(Paget病)」の3種に大別されます。

## 同じ乳がんでも細胞の性格はさまざま

同じ乳がんであっても細胞の性格はおとなしいものから活発なものまでさまざまで、患者さんによって違います。

### 乳房のしくみと乳がん



### 早期治療の重要性

がん細胞の困る点は、秩序正しく働いている正常な細胞とは違い、異常に増殖して局所で増大し、さらにはリンパ管や血管の中にもぐり込んで、リンパ節や他の臓器に転移し、身体の正常な働きを妨げ破壊する性格をもっていることです。

乳がんにはさまざまな性格の細胞があったいましたが、幸いなことに、乳がんは他のがんに比べてゆっくり増殖するものが多く、なかには小葉や乳管の中だけに拡がり、乳管の外には拡がらないもの(非浸潤がん・乳管内がん)もあります。しかし、多くのがんは乳管とまわりの基底膜を破って浸潤がんになっています。

### がん細胞が体の各所に拡がると身体の正常な働きを妨げ、生命を脅かすこととなります

治療をせずに放っておけば、下の図のように、周囲の組織に拡がり、リンパ管を通してわきの下(腋窩)のリンパ節や鎖骨の上のリンパ節、あるいは血液を通して骨、肺、肝臓などの臓

器へ転移し、命を脅かすことになります。

このような事態を未然に、あるいは可能な限り防ぐために、できるだけ早く治療を開始しなければなりません。また、しこりが少々大き目であったり、腋窩リンパ節に転移を認める場合でも、最近では、後で述べるように手術と他の治療法(化学療法 やホルモン療法、放射線照射)を組み合わせることで治療効果を高めることが可能になってきています。

### 乳がんの進展

